

キエーロモニターのしおり

金山町役場 保健福祉課 保健係

キエー口とは？

土の中にいる微生物の力によって生ごみを分解・消滅させる生ごみ処理容器です。

キエー口の特徴

- ◇庭やベランダといった小スペースで使用できる
- ◇土の中にいる微生物が生ごみを分解するので、虫や匂いが発生しない
- ◇分解された生ごみは、水と二酸化炭素になるため土の量は増えない
- ◇特別な薬剤や電気代が必要ないため、維持費がかからない
- ◇食品の水切りが不要
- ◇食用油・汁物・腐ったもの・カビのついたものも処理が可能。

※発生する生ごみの全量を処理できるわけではありません。分解の様子をみながら、生ごみの一部を処理する容器として利用してください。

1.モニター期間

2ヶ月間（キエー口モニターセット受渡し日から）

2.モニターの役割

- ・生ごみの投入記録をつける。
- ・モニター期間終了後アンケート調査に回答する（※アンケートは後日送付いたします）。



3.キエー口設置から投入までの準備

- ① 日当たり、風通しが良い所に設置します。
- ② 容器に黒土を入れます。土の表面が乾くまで1日～2日置いておきます。

※畑や庭の土を使っていただいても構いません。ただし、粘土質や砂は適しません。

注意点

- ・雨が入らないようにフタをしますが、空気の通り道は必要です。棒を挟むなどして隙間を作ってください。
- ・土の表面は常に乾いた状態にしてください。

4. 生ごみの投入方法

生ごみを埋める場所を想定します。今回の容器では3~4か所が目安です。



① 深さ 20cm ほどの穴を掘る

- ・表面の乾いた土は最後にかぶせるので、まとめておきます。



② 生ごみを入れる

- ・1回に入れる生ごみは400グラム程度までにしてください。
(※おおよそ片手1杯分が目安です。)



③ 水分量を調節し生ごみと土をよく混ぜる

- ・土と生ごみが軽やかたまり、土団子が作れるくらいの水分量を目安に水を足します。

※生ごみの水分で足りる場合は必要ありません。

- ・生ごみを細かく砕きながら、土と見分けがつかなくなるくらいまでよく混ぜます。



④ 乾いた土をかぶせる

- ・生ごみが見えないように乾いた土をたっぷりかぶせて終了です。
- ・ごみを表面に出さないことで、臭いや虫の発生を防ぎます。



埋める場所を変えながら、①~④を繰り返します。

気温が高い時期で5日~7日。低い時期で10日~14日で生ごみは分解されます。

分解状況により投入量や頻度を調整してください

5. 分解しやすいもの・分解しにくいもの

キエー口は、人間が食べる食品はほとんど分解しますが、骨、種、固い皮などは苦手です。

【分解が早いもの】

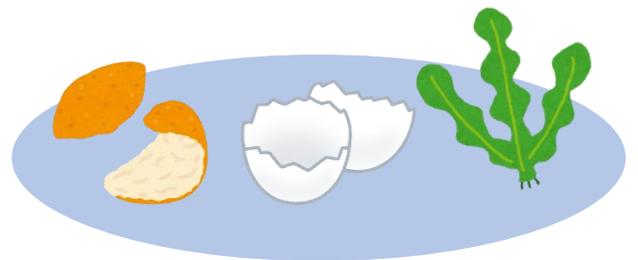
- 調理されたもの
- 傷んだ食品
- 食用油、お茶がら など



【分解が遅いもの】

★そのままでは分解しにくいので出来るだけ細かくする。

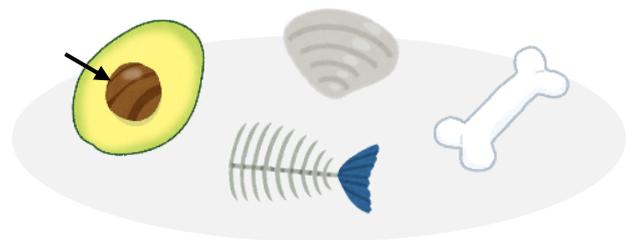
- 生野菜
- 柑橘類の皮
- 根菜類・とうもろこしの芯など固いもの
- 卵の殻 など



【ほとんど分解しないもの】

★キエー口に入れてもそのまま残るので、燃やせるごみで捨ててください。

- 鶏や魚などの大きな骨
- 玉ねぎの皮など水分のない皮
- 貝などの固い殻
- 桃、梅干しなどの種 など



分解を早めるポイント

◎生ごみを入れるときに、前回埋めた場所を軽くシャベルで突き刺して空気を入れてあげると、分解が進みます（生ごみが土の表面に出ないように注意してください）。

◎食用油を少量加えると、微生物のはたらきが活発になり分解が進みます。

6. よくある質問

<p>生ごみが消えない</p>	<ul style="list-style-type: none"> <p>・分解しにくい生ごみではありませんか？</p> <p>生野菜や柑橘類の皮など分解しにくいものは、出来るだけ細かく刻みましょう。土と混ぜるときも、ザクザクと傷つけるように混ぜると分解しやすくなります。</p> <p>・気温が低くありませんか？</p> <p>気温が低いと微生物の働きが鈍り、分解が遅くなります。設置場所は日当たり・風通しが良い場所を選びましょう。</p> <p>・水分は適切ですか？</p> <p>土の水分量は多すぎると悪臭の原因となりますが、カラカラに乾いていても生ごみが分解しません。生ごみを入れたら土がまとまる程度に水を加えてください。</p> <p>※使い始めて間もない場合は微生物の数が少なく、分解に時間がかかります。</p>
<p>虫や臭いが気になる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <p>・生ごみの投入量が多すぎる可能性があります</p> <p>投入する生ごみが多すぎると分解が追い付かなくなり、臭いや虫の原因となります。投入量や投入頻度を減らしてみてください。</p> <p>・水分が多すぎる可能性があります</p> <p>水分が多すぎて中がドロドロになっている場合は、乾いた土を混ぜて水気を緩和し、生ごみが分解されるまでしばらく投入を控えましょう。</p> <p>・埋める場所が浅いのかもかもしれません</p> <p>生ごみを埋める場所が浅い場合や、表面に出ていると臭いや虫の原因となります。生ごみは土とよく混ぜて深く埋め、さらにその上から乾いた土をかけてください。</p> <p>※虫の発生が気になる場合は、お湯や殺虫剤で駆除しても問題ありませんが、生ごみが無くなり土が乾燥すればいなくなります。</p>
<p>白いカビのようなものが出てきた</p>	<p>生ごみの分解が進むことで発生するもので問題ありません。</p>